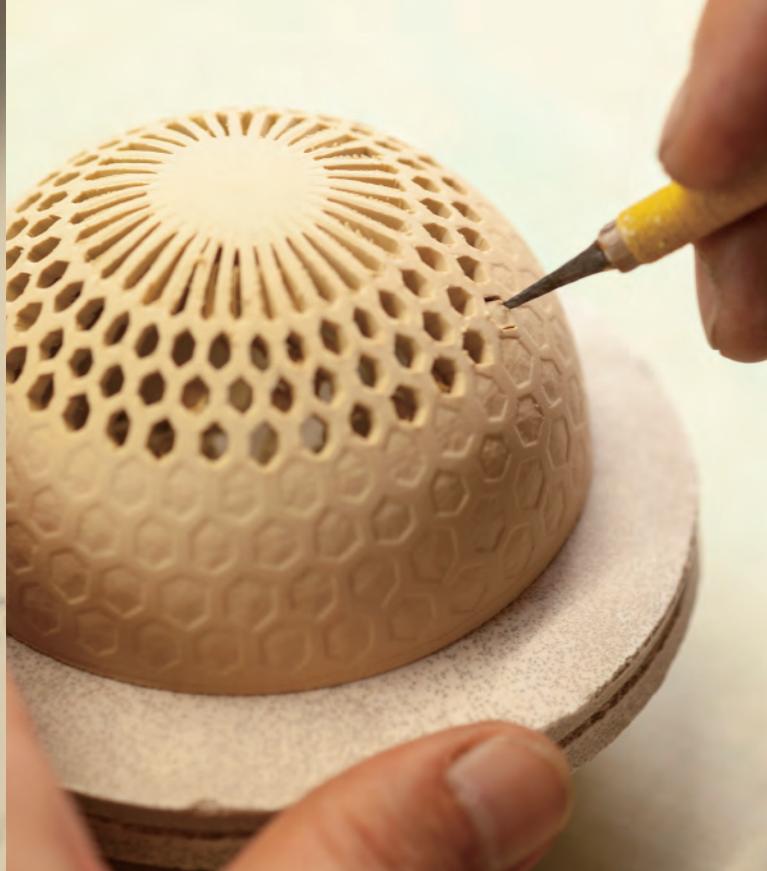




染付け／素焼の白地に藍色の顔料「呉須」で絵や文様を描く技法



透かし彫り／生地の一部をくり抜いて模様を表す技法

日本遺産 Japan Heritage

Vol. 13 「日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」 三川内の磁器製作技術(佐世保市)

陶土や陶石、燃料(木々)、水(川)など、窯業を営む条件がそろって自然豊かな九州北西部の地「肥前」では、さまざまなやきものが誕生し、それぞれに歴史を紡いできました。

佐世保市東部に位置する三川内地区で作られる「三川内焼」もその一つです。江戸時代初期、平戸藩主の命を受けた陶工・巨関が平戸の中野地区(現在の平戸市山中町)に窯を築いたことに始まり、その後、三川内地区に設置された藩の御用窯で朝廷や幕府への献上品が焼かれるようになりました。平戸藩の厚い保護の下、採算を度外視したやきものづくりが行われ、三川内では、ひととき高度な技術が発達していきます。その技術は、染付けや透かし彫り、菊花飾細工、置き上げ、薄づくり(卵殻手)など、実に多様です。

江戸時代後期には、海外への輸出が始まり、その繊細で美しい染付けや細工はオランダをはじめヨーロッパ各国で高い評価を受けました。卓越したやきものづくりの技術や精神は、三川内の窯元に脈々と受け継がれ、今もなお人々を魅了し続けています。

400年熟成観光地。



日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



受け継がれた伝統の技を生かして、現在のライフスタイルにも合うやきものづくりが行われている。



やきものを焼く時に使う道具「はまぜん」を供養する神事の様子。窯元巡りも楽しめる「はまぜんまつり」は、毎年5月1～5日に開催される。

問合せ 県の県北振興局 商工観光課 ☎0956-24-5287

肥前やきもの圏

検索

